

越前禅定道探訪記 その3

三頭山

鋤之宮のある尾根をさらに登っていくと、平泉寺からの沢づたいの登山道と交わります。そこからしばらく行くと、三頭山の山頂付近に出ます（写真1）。

三頭山の名前は、法恩寺山方向の尾根と大師山方向の尾根、平泉寺方向の尾根の三つが交わることに由来するとされています。

山頂は、標高が778mをはかり、約10m四方の広場となっています（写真2）。この広場の北側には、長さ15m、幅4m、深さ1m



の堀切がありますが、いつ頃つくられたものなのか不明です。中世に平泉寺の防衛のためにきずかれたものなのか、近世に起こった山の境界をめぐる争いのための溝なのか謎に包まれています。《奇数号へ続く》

平泉寺こぼれ話第13話

平泉寺出土品 その1

これは何に使われたものでしょうか？

平泉寺の発掘調査が始まった平成元年、南谷の一番奥まった所にある僧坊跡の井戸内（直径1.5m、深さ6.3m）から下の写真のような加工痕のある木片が出土しました。

大きさは長さ12cm、直径4cmで、中央部に、斜め方向からえぐりが入れられていました。

一緒に出土した遺物から、中世の僧坊内で使われていたものと言えます。



答えは、編み物用の木製のおもりです。一般的には「つちのこ」とよばれており、ムシロやコモを編むときのおもりとして使われたものです。昔、僧坊内ではちょっとしたものを編んでいたといえます。

世界遺産へ向けて

先月の27日に開催されました白山文化フォーラムの冒頭、ふくいユネスコ協会主催の「絵で伝えよう！わたしたちのまちのたからもの」絵画展の表彰式がおこなわれました。

この絵画展は、世界遺産登録推進事業を行っております小浜市と勝山市の小中学生に、身近な宝物の絵を募集したものです。



絵画展受賞者 その結果 1,147 点の絵画が集まり、40 点の作品が入選しました。作品の中には、平泉寺の風景や杉の大木、九頭竜川の流れや左義長まつりの絵が目立ちました。

国史跡平泉寺の整備情報誌

平泉寺かわら版

No. 13 (2009年10月号)



【発行】 勝山市教育委員会 史蹟整備課

【発行日】 平成21年10月22日

【ご意見・ご要望は下記まで】

電話: 0779-88-8113(直通)

メール: shiseki@city.katsuyama.fukui.jp



今号の内容

特集: 白山文化フォーラム2009開催
読書の秋、白山信仰に関する本は
いかがでしょうか

連載: ★世界遺産へ向けて
★平泉寺こぼれ話 ~第13話
★越前禅定道探訪記 その3

最新情報

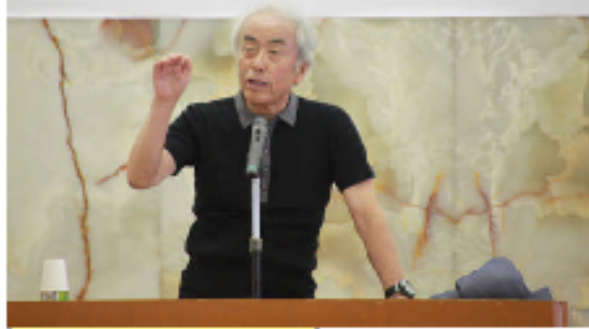
今年度、発掘調査を進めております平泉寺南谷の門・土堀復元予定地区で、白山文化フォーラムにあわせて発掘調査現場の説明会を行いました。当日は天候に恵まれ、多くの参加者が地中から発掘された石敷遺構を熱心に観察していました。



金栄健介先生

白山文化フォーラムは、21世紀最初の年となった2001年から開催し、今年で9回目を迎えました。その目的は、ずっと白山や平泉寺の魅力を語り、広く皆さんにお伝えすることとしています。

白山・平泉寺の風景



増永迪男先生

今回のフォーラムでは、山岳エッセイストとして活躍されている増永迪男先生に「白山の風景」と題してご講演をいただき、白山についての意外な一面が明らかになりました。講演に引き続き行われた対談では、幅田みち恵さんの司会進行で、山岳画家の金栄健介先生、増永迪男先生、山岸正裕勝山市長が、実際の体験をもとに白山や平泉寺の魅力に迫りました。



幅田みち恵さん



山岸正裕勝山市長



45 白山信仰関連資料

けっこうあるんだね！

勝山市立図書館には、地元勝山、特に平泉寺の歴史や白山信仰について書かれた書物を集めたコーナーがあります。

平泉寺や白山信仰の歴史をひもとくと、きっと私たちの住む勝山市の地域性、特色がみえてくると思います。

この秋、勝山市立図書館の郷土歴史コーナーをご利用してみたいはいかがでしょうか。



こんな本がおすすめ！

図書館にあります白山信仰に関する代表的な本をご紹介します。

①は、今回の白山文化フォーラムにパネラーとして来ていただきました金栄健介先生の著書です。すてきな絵で白山の自然や歴史がわかりやすく紹介されています。

②は加賀馬場の白山比咩神社が出版された白山信仰に関する図録です。豊富な写真で、大変見やすくなっています。

③は白山信仰研究の第一人者である下出積興先生(故人)の著書です。白山信仰の特色が読み物風にまとめられており、分かり易い内容となっています。

④はかなり専門的な本です。白山の歴史や自然について、さらに詳しく知りたい方におすすめです。